



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高！](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の回窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第10回 夢のお告げ

BI 0 チェック いいね! 0 Tweet

最近、月日の経ち方が速すぎて困っています。楽しみにしていたお正月も、気がつけば遙か彼方に過ぎ去り、それどころか節分がすぐそこに。

あまりにも時間が経つのが速いので、もしや地球の自転スピードが速くなっているのではないかと疑ってみたくなるのですが、事実はその逆で、地球の自転は少しずつ遅くなっているそうです。私たちにとって1日は約24時間ですが、地球が生まれたばかりの頃は自転のスピードが今より速く、1日は22時間程度だったとか。

1日の長さは少しずつ長くなっているのに、月日の経ち方が逆に速まっているように感じられるとしたら、やはり現代人は忙しすぎるのでしょうか。

ともあれ、あつと言う間に過ぎてしまったお正月ですが、お正月と言って忘れてならないものに、「初夢」があります。

かつて日本人は、初夢でその年の吉凶を占っていました。よく知られた吉夢に「一富士、二鷹、三茄子(なすび)」がありますが、このあとには「四扇、五煙草、六座頭」がつづきます。

富士や扇はともかく、茄子や煙草がなぜ吉夢なのか、今ひとつ理解できませんが、一説によれば富士と扇は「末広がり」で縁起が良く、鷹と煙草(の煙)はともに空に登ることから「運氣アップ」につながり、茄子と座頭はどちらも毛がないので「怪我ない」、つまり無事故に通じるとか。

最後は驚くばかりのオヤジギャグですが、「一富士、二鷹……」を考えたのが実は徳川家康である、というまことしやかな噂話を聞きますと、「さてはこのなかに埋蔵金の秘密が封じ込められているのでは」と思ってみたり、謎は尽きません。


かく言う私は、現代人のなかでは初夢を大事にするほうです。大事にすると言っても、毎年1月1日の夜に宝船の絵を枕の下に入れ、(良い初夢が見られますように)と手を合わせてから眠るという程度の話ですが。それにしても、宝船には七福神が乗っていますから、私は実にいろいろな神さま仏さまに祈っていることになりますね。船の絵の傍らには、

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)

プロカメラマン
鈴木知子

ここでしか見られない
珠玉の作品を公開
ソニー／デジタル一眼カメラ
特設サイト

sony.jp



長き世の 遠の睡りの 皆目覚め 波乗り船の 音の良きかな
(ながきよの とおのねふりの みなめさめ なみのりふねの おとのよきかな)

という和歌の回文(上から読んでも下から読んでも同じ言葉)が添えられています。江戸時代には「吉夢を呼ぶ」というふれこみで、この絵が大流行したそうで、元日になると「宝船～、宝船～」と呼ばわりながら宝船の絵を売り歩く物売りがあちこちに現われ、庶民は競ってこの絵を買ったと、ものの本で読んだことがあります。宝船の絵に願をかけ、万が一悪い夢を見てしまったときには、絵を川に流して供養したり、それでも足りなければ夢違観音(ゆめちがいかんのん)にお参りしたりと、当時の人たちは、それはまあ大騒ぎだったようです。



山田真美秘蔵の宝船の絵。枕の下に入れて眠ると良い初夢を見られると言われて
います。

ところで私は5年前から毎日欠かさず「[夢日記](#)」をつけていて、それさえ読めば、自分が過去に見た夢の内容をたちどころに思い出すことができます。当然のことながら、過去の初夢もつぶさに思い出せます。

「夢日記」をつけ始めたことには理由があって、それは私が幼少の頃からときどき正夢を見ることと関係しています。つまり、夢に見たことが現実世界でも起こるという経験ですが、そういうことを子どもの頃からしばしば体験するうちに、「そもそも夢って何だろう」という疑問を強く持つようになったわけです。

脇腹から白い象が入る夢をご覧になったマーヤ夫人がお釈迦さまを懐妊なさった例もあるように、実際、夢とはしばしば示唆的なものです。正夢を見たことがある人は少なくないでしょうし、正夢の中身も、説明のつけやすいものから理屈では説明できないものまで、実にさまざまな種類があるでしょう。

ほとんどの恒温動物は夢を見るそうですから、もしかしたら犬や猫や鳥たちも、人間と同様に、いや、それ以上に正夢を見ているのかも知れません。

「夢日記」を付けるようになってからは、前にも増して夢の中身に注意を払うようになりました。それでわかったのは、私の夢は多いときは週に1度ぐらい、少ない時でも2か月に1度ぐらいは正夢になるということでした。

実は今月も、すでに正夢を見ました。この夢を見たときは、ベッドではなく自動車の後部座席でウトウト眠っていたのですが、夢の中でも私はやはり自動車の後部座席に座っており、左隣にはなぜか“おかめさん”が乗っていました。そうです、例の“おかめ・ひよっこ”で有名な“おかめさん”です。

その“おかめさん”が夢のなかで言うことには、

「左車線の車がトツゼン車線変更して、この車の直前に割り込んで来るから気を付けて！」

それぎり夢は終わってしまったのですが、夢から醒めてわずか2～3秒後、実際に左車線を走っていた自動車が、ウinkerも出さずにいきなり前に割り込んできたのは本当に驚

きでした。こちらのドライバーがすぐに減速したから事なきを得たものの、一歩間違えば大事故です。

実は、この出来事があった同じ日、私は知人のお坊さんに連れられて京都の千本釈迦堂へお参りに行っていました。千本釈迦堂は、おかめ伝説発祥の地です。この日はお坊さんたちと一緒に、“おかめさん”のモデルになった阿亀(おかめ)さんの像にお参りました。

その数時間後に見た夢に“おかめさん”が現われ、左車線から割り込んで来る車のことをピタリと預言してくれるとは、これは一体どういうことなのでしょう。

もちろん、「そんなただの偶然だよ」という考えもあるでしょうし、確かにこれはただの偶然なのかも知れません。けれども私は心の中で(守ってくださってありがとうございました)と、目には見えない“おかめさん”に礼を言っていました。

これまでも、夢のおかげで助けられたことは何度もありますし、実際、この世には理屈だけでは説明できない不思議な出来事がいくらでもありますから。

ところで私はこれまで、初夢と言えば1月1日の夜から2日の朝にかけて見るものと思こんでいましたが、今回よくよく調べたところ、2日の夜から3日の朝に見る夢を初夢と呼ぶ場合もあるんですね。また、旧暦を使っていた頃の日本では、節分から立春(今年の場合は2月3日の夜から4日の朝)にかけて見る夢を初夢と呼んだそうです。

今年は2月3日の夜に枕の下に宝船の絵を置き、夢占いとしゃれてみるのも一興かも知れません。

◀ [第9回 犬に引かれて](#) [第11回 座敷わらし](#) ▶

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。



山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>

私が生まれた本当の意味って？

マヤ暦占星術で自分の使命が分かる あなたらしく輝いた生き方になる方法とは mayan-astrology.orgへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



© 2002-2016

真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう！](#)

[たいけんしてみよう！](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん！](#)

[ぶつ仏クイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院NewS](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

私が生まれた本当の意味って？

マヤ暦占星術で自分の使命が分かる あなたらしく輝いた生き方になる方法とは mayan-astrology.orgへ進む

